

12月定例千葉県議会

12月県議会が21日に閉会し、39議案すべてが可決しました。日本共産党は、このうち9議案に反対し、加藤英雄県議が討論しました。また、みわ由美県議が2020年度決算認定の反対討論に立ちました。



議案討論

予算の半分を使い残すやり方が常態化

来年度への特別会計土地区画整理事業会計補正予算の繰越額（繰越明許費）は約52億円で、今年度当初予算の46.6%にあたります。この傾向はずっと続いており、昨年度53.5%、一昨年度35%、2018年度49%、2017年度53%の繰り越しです。

地方自治法で規定されている繰越明許費を否定するものではありませんが、各会計年度における歳出は、その年度の歳入を充てるのが原則です。年度初めに当初予算の1.5倍程度の事業量を抱え込むことは、「予算の効率的な執行、実効的な財政支出という視点で精査すべき」「単に予算確保のための繰越明許費の設定は認められない」と厳しく指摘しました。

昨年度、コロナ禍、命・暮らしを守る対策が不十分

感染拡大抑え込む無症状者への検査ひろがらず

検査範囲は有症状者中心に絞り込み、無症状者に対する大規模な検査は広がっていませんでした。臨時医療施設1千床の約束を守らず、わずか66床しか確保せず、受入れは最大でも一日わずか15床に留まりました。県保健所は深刻な人手不足で大量の応援や派遣職員が入りましたが、県は、保健所の保健師をきちんと増やしていません。

県民へのケア体制は脆弱なまま

人口10万人あたりの看護師数は全国46番目、就業保健師数は42番目です。子ども医療費通院助成対象は県内市町村が独自に広げていますが、県は9年連続小学3年生で止まったままです。特別養護老人ホームの定員数（人口比）は全国43番目と少なく、待機者数は、近年最多の1万2525人なのに、定員増は近年最小の643床に留まりました。少人数学級の拡大は進まず、教室や講師不足で学級規模が大きくなった学校もあります。



決算討論

不要不急の巨大開発は聖域扱い

その一方、コロナ禍であっても一切見直しや凍結なく、不要不急の巨大開発が、聖域なく進められています。

北千葉道路と外環道をつなぐ新規事業の総事業費は約1900億円。用地取得等で、さらに膨らむことは必至です。千葉港長期構想にもとづく千葉港港湾計画は、中央ふ頭臨海部約27ヘクタールを埋め立て、巨大な橋を2本もかけて臨港道路を通す計画です。いったい、いくらかかるか、わかりません。事業の凍結や見直し、中止を求めました。

12月県議会に提出された主な意見書・請願 (○…賛成・採択 ×…反対・不採択)	共産党	自民党	千葉 憲民 民主	公明党	千 翔 会
憲法9条「改正」発議の断念を求める意見書	○	×	×	×	×
核兵器禁止条約の批准を求める意見書	○	×	○	×	○
日・米オスプレイの撤去を求める意見書	○	×	×	×	×
約20万床の病床削減をする地域医療構想の中止・撤回を求める意見書	○	×	×	×	×
痴漢を根絶するための対策強化を求める意見書	○	×	×	×	○
米価下落の不安をなくし、米生産の安定化を求める意見書	○	×	×	×	×
県独自に少人数学級を拡充。当面35人以下学級を小・中・高すべての学年で早急に実現(請願)	○	×	×	×	×